

不得手

1 エンジン搭載して プレマシーがスポーティに武装する

フリーザ・シリーズを発売して拡販に乗り出しているマツダのRVラインナップ。なかでもコンパクトなボディサイズに3列シートを収め、質実剛健なイメージのプレマシーにホットな追加モデルが発売されることになった。

その内容とは2直4ツインカムエンジン搭載とアクティブマチックの採用だ。2エンジンはファミリアSWゴンに搭載されているFS Z E型が流用され、170ps/18・4・mの高スベックを誇る。

シークエンシャルモードをもつアクティブマチックは本来ならシフトレバー横にサブゲートが設けられるはずなのだが、プレマシーはコラムシフトを採用しているため、サブゲートの代わりにステアリング・スイッチが



エアロパーツのほかインチアップされたアルミホイールも装備。

設置される。言うなればトヨタのステアリングマチックと同様のものだ。
バランスのよさでは現行モデルも悪くはないが、もっと刺激的な走りを楽しみたいユーザーにはオススめの1台だ。

2 アルテッツァに 新エンジン追加か？ 高いのも安いのも検討中

鳴り物入りで登場した生粋のFRスポーツセダン、アルテッツァが苦戦している。登場直後は幅広い年齢層のユーザーが注目したが、いまやその存在感はすっかり薄れてしまっ

の2に加えて、より付加価値の高い1JZ、GE型2・5直6と、安価な1・8（1JZから2JZかは不明）のふたつが候補に挙げられている。おまけに前者はチューンナップ改良により、現行比プラス50psの250psをしぼり出すともウワサされている。

レガシイB4に話題をさらわれ、トヨタにとっては思わぬ誤算だった。それが挽回される日も近いのかもしれない。これでアルテッツァ人気も再燃か？

具体的にはエンジン・パリエーションの拡大を検討されており、現行



低価格な1.8が登場すれば、アルテッツァ人気も再燃するかな？



心臓もスペシャルなTRDスポーツMは目の目を見るか？

3 心臓もパワーアップする セリカTRDスポーツM

内外装にスペシャルパーツを多用し、希少価値を全面に押し出したセリカTRDスポーツMをこ存じだろう

模様。いつもの、ひと皮むけばベース車とほぼ変わりの性能で、なんちゃってスペシャルティにすぎなかったからだ。そんな反省を受け、エンジン

にも手を加えた新バージョンが開発されているという。インテグラ・タイプRをライバル視し、改良版2JZ、GE型は1・8でありながら最高出力220psを誇る。唯一、心配なのがコスト面で、このまま発売されても300万円近い価格設定になるため、話が立ち消えになる可能性もある。

ところが、セリカティ・マニアにとってはいささか役不足だった

4 8月23日はエルグランドの日 待望の3・5も登場だ

登場以来、アメリカンな出で立ちが高い人気を集めてきたエルグランドにMCが実施される。エクステリアではフロントバンパーやヘッドランプ、グリルなど、マスク全体を大幅に変更。同時に待望の3・5 V6エンジンが新搭載され、グラン

ビア兄弟に負けない走行性能を身につける。

最上級グレード「Xリミテッド」が登場するのにもない、既存モデルの装備設定も見直される予定だ。キセノンヘッドランプやメッキドアミラー、フィドマスコットISO、FIX

対応シートなど、新設定されるアイテムも数多い。

ボディカラーは4色が差し替えられ、待望のホワイトパール（モトーン）も登場される。なお、詳細は56ページに掲載しているの

で、参照いただきたい。

マスク変更とメッキパーツの多用で、より迫力が増すだろう。



5 またまた千葉からのRAV4目撃談 今度はエアスクープ付が 走ってた！



ヨーロッパをメイン市場に定め、ディーゼルトーボ車も登場するか。

読者から、「新型RAV4のボンネットフードにエアスクープが付いていたんです」との目撃情報が寄せられた。場所は千葉県国道410号線沿い、飯ナンパーを付けて林道に入っていく姿を目撃したという。また、近くにはクルマを運んできたと思われるコンテナバンも停車していたとか。ちなみに、RAV4は発表直前の5月にも同じ場所で見撃されていた。

スクープ班では以前に情報を得ていたディーゼルトーボ車ではないかと予想している。当初の予定に変更がなければ、年内にディーゼルトーボ車とソフトトップ・モデルが追加デビューするはずだ。

7 モデリスタに負けてられない TRDもMR-S改造に チャレンジだ



架装モデル発売でMR-Sへの注目度を上げるのがメーカーの狙いか？

ボディパネルが簡単に取り外せる構造を生かし、トヨタモデリスタが独自デザインの新装モデル「カセルタ」をリリースした。アンテックな雰囲気をもし出し、年配ユーザーにも受けそうなデザインを採用。

これに對抗し、TRDもMR-Sリメイクモデルの開発に乗り出した。こちらはTRDのスポーティな性格を盛り込み、幅広フエンダーと専用バンパーで武装。ただし、エンジンまわりは変えず、あくまでもベースモデルのナチュラル・テイストをそのまま継承させるようだ。具体的な発売時期は現在も調査中である。

6 ホントにこの名前で売るのは YRVに正式決定したハナ

99年の東モ出品以来、誰もが首を長くして登場を待っているダイハツの新型コンパクトミニバン「YRV」に関する新情報を入手した。

新ニュースは各ディーラーに送られたFAXから判明。それによると、ついに正式車名がそのまま「YRV」に決定したそうだ。若いセールスマンの間では「YRVがナニの略なのか」、早くも取り沙汰されているらしい。

い。さすがにターボエンジンを載せ、あれだけのダイナミック・フォルムをまとうとは、身内とは言え、注目せずにはいられないのだらう。

気になる登場時期だが、早ければ8月、遅くとも冬を迎える前にはショールームに並ぶはずだ。また、先ごろ登場したアトラージュにも同じ1・3ターボエンジンが搭載されるとの情報あり。



1.3ターボエンジン搭載の「YRV」。登場が待ち遠しいね。

8 CR-Vがベルノ店専売に？ もうプリモ店では買えないのか

クリオ店はクライスラー・ジープといすゞ製クロカンのおEMモデルを販売していたため、CR-Vは発売時からプリモ店とベルノ店の2チャンネルで販売されてきた。ところが、ここきて次期モデルはベルノ店専売になるとのウワサが舞い込んできた。プリモ店用には何か別の隠しタマがあるのだろうか。

RAV4の世代交代や日産クロカン「Z」のスクープを受けて、急速に色あせてきたCR-V。2代目の開発は着々と進んでいる。



特別仕様車を連続発売して話題性を保っている現行CR-V。

10 埼玉県・狭山工場 “コテッセイ” 試作中

狭山工場にはアコード、アヴアンシア、レジェンドを生産する混合ラインがあるが、見ての

とおり、販売面で苦戦している車種がメイン（アコードはもうひとつのラインでも生産中）。「コテッセイ」とストリームがシビック・ベースにもかかわらず狭山工場で生産されることになったのは、このライン稼働率を上げるためだ。工場ではラインを覆い隠すカーテンが引かれ、すでに生産試作が組み付けられている。



アヴアンシア、レジェンドがラインを流れるのは週1回。その日以外にストリームの生産試作が行われているはずだ。

9 ヨイツはナソ！？ 新型セルシオが 関東自動車工業から搬出されていた

静岡県東富士にある関東自動車工業から出てきた1台のキャリアカー。そこには軽擬装された新型セルシオが積載されていた。セルシオは引き続き愛知県にあるトヨタ自動車の田原工場

で生産されるはずなのに、なぜ関東自動車から？

周知のとおり、東富士にはトヨタ自動車のテストコースがあり、ここから出てきたトヨタ輸送のキャリアカーが何らかの用途で関東自動車にも立ち寄った可能性が高い。